

グループ診療対応 (dbs インタフェースによるアクセス)

グループ診療対応により全てのテーブルのkeyがhospidからhospnumに変更となっています。  
(一部 hospnum の不要なテーブル(tbl\_byomei 等)もありますがそれについては DB 定義書を確認してください)

a. hospnum 取得方法について

1. 連携用に設定するユーザ名が日レセシステム管理(管理コード 1010:職員情報)に登録してある場合

※ユーザ名: glclient -port (host) -user (user) -pass (password) の  
-user に該当する部分です。

- 1-1. この場合は、システムユーザテーブル(tbl\_sysuser)から user 名により該当の hospnum を取得することが可能です。

user : user 名  
pathname : key

2. 登録してない場合

- 2-1. 医療機関 ID を使用した hospnum の取得

画面等により医療機関 ID の設定を行い、この医療機関 ID をもとにシステム管理を検索しマッチしたレコードの hospnum が該当となります。

kanricd : 1001  
kbncd : \*  
styukymd : ymd  
edyukymd : ymd  
pathname : key19

2-2. その他

画面その他で医療機関番号(hospnum)を設定する。

b. テーブルアクセス方法について

上記 a で取得した hosonum により現状 hospid をアクセスキーとしていたものをこの hospnum に差し替えることでテーブルへの正しいアクセスが可能となります。

ver4.0 以降での FETCH, SELECT 文 (Ruby による記述例)

```
1. tbl_wksryact[HOSPNUM] = '01' ;    ← この行が変更となる
2. tbl_wksryact[PTID] = '0000000170' ;
3. rc = server.recordops("DBSELECT", "tbl_wksryact", "dbs", tbl_wksryact);
4. server.recordops("DBFETCH", "tbl_wksryact", "dbs", tbl_wksryact);
5. tbl_wksryact[SRYKA] = '10' ;
6. server.recordops("DBUPDATE", "tbl_wksryact", "dbs", tbl_wksryact);
```